



平成24年10月29日

各 位

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社
代表者 代表取締役社長 炭井 孝志
(コード番号: 2915 東証第1部)
問合せ先 取締役 村田 隆
電話番号 03 - 5962 - 7777

業績予想の修正に関するお知らせ

平成24年5月10日付当社「決算短信」において公表いたしました平成25年3月期(平成24年4月1日~平成25年3月31日)の連結及び個別業績予想について、第2四半期累計期間及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

平成25年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日~平成24年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	26,700	1,250	1,180	520	36.59
予想値 (B)	27,388	1,594	1,531	772	54.38
増減額 (B - A)	688	344	351	252	-
増減率 (%)	2.6	27.6	29.8	48.6	-
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成24年3月期第2四半期累計期間)	25,846	952	935	498	35.07

平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	52,700	2,300	2,150	1,070	75.29
予想値 (B)	53,400	2,650	2,500	1,280	90.07
増減額 (B - A)	700	350	350	210	-
増減率 (%)	1.3	15.2	16.3	19.6	-
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	51,878	2,144	2,073	1,029	72.46

平成25年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	22,900	1,040	570	40.11
予想値（B）	23,460	1,472	863	60.74
増減額（B - A）	560	432	293	-
増減率（％）	2.4	41.6	51.4	-
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成24年3月期第2四半期累計期間）	21,976	825	451	31.78

平成25年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	45,000	1,950	1,050	73.89
予想値（B）	45,600	2,400	1,380	97.11
増減額（B - A）	600	450	330	-
増減率（％）	1.3	23.1	31.4	-
（ご参考）前期実績 （平成24年3月期）	44,112	1,829	924	65.07

修正の理由

（1）第2四半期累計期間（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

当社グループにおきましては、当連結会計年度を初年度とする『中期経営計画（フォース）2012-2014』の策定を行い、「市場演出型企業としての成長戦略」を指針とし、新しいサラダの領域の確立、「市場演出型企業」としての存在感アップ、グローバル企業への成長を目指しております。

売上高につきましては、従来より進めてまいりました外食・コンビニエンスストア向け等の分野別チームの取り組みの成果や東京本社のメニュー提案設備である「Cooking Labo TOKYO」における共同試作を通じた積極的なメニュー提案が、売上高の増加へ大きく寄与いたしました。この結果、前年同四半期対比で増収を達成するとともに、第2四半期連結累計期間の連結売上高予想を上回る見込であります。

この売上高の増加に向けての取り組みが、工場の稼働率アップに寄与し、利益増への大きな要因となりました。また鶏卵相場が前年以下の水準で推移するなど、原材料相場が落ち着きを見せている事もありますが、当社グループの収益改善への取り組みとして、生産工程の改善や経費の圧縮等による製造コスト低減を実施してまいりました。この結果、当第2四半期累計期間におきましては、連結・個別ともに営業利益及び経常利益並びに四半期純利益は、いずれも業績予想数値を上回る見込であります。なお四半期純利益につきましては、平成24年9月18日付『新工場に関するお知らせ』により、新工場建設を公表いたしました。建設に伴う一時的な費用として、減損損失155百万円が見込まれるものの、営業利益及び経常利益の増加により当該損失を吸収し、四半期純利益予想も上回る見込が出来る見込であります。

(2) 通期 (平成24年 4 月 1 日 ~ 平成25年 3 月31日)

通期業績予想につきましては、世界的な景気減速懸念に加えて、穀物相場の高騰による原料価格の上昇が進むことなど、当社グループを取り巻く収益環境は不透明感が強まっております。これら国内外の経済情勢を背景に業績の動向を勘案しました結果、第 3 四半期及び第 4 四半期会計期間は、連結・個別ともに売上高及び経常利益は、期初に策定いたしました業績予想とほぼ同水準で進捗するものと想定した通期業績予想としております。

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上